

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の直筆で、理念を掲げている。	○	利用者やご家族の思いを、地域に発信していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解し、日々の支援で実践している。	○	職員・臨時職員という垣根を越え、共に支援するチーム(人)としての認識を共有し、理念の実践に向けた取り組みを利用者(人)と共に生活支援を行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人々に理解して頂けるように、目立つ場所に理念を掲示している。	○	事業所に対する運営理念を、事業所を利用する者の立場からの希望や願いを取り入れた、利用者自らが筆を取った「運営理念」(随時更新版)が掲示されている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等に出かけた時など、気軽にあいさつや声かけをしあいながら、近隣の方々と付き合いが出来るよう心がけている。	○	大小数種類のグループの方々に出入りしていただけるようになった。月に一度以上は馴染の喫茶店に出向き、『常連』になれるようがんばりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、孤立しないよう利用者と職員が共に地域行事や活動に参加できるように努めている。	○	今後も積極的に参加して行き、さらに交流を深めていきたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	シルバー110番を設け、24時間相談を受けている。今日までに、一般市民の方約70名が当事業所での講習・実習を受けて卒業された。その後は、地域認知症無料相談所長として、地域でさまざまな活動等をなされている。	○	現在、シルバー110番活動は、地域包括・社協・認知症の人と家族の会の共催となり、事業所や地域を越え他市町村にも拡がり始めている。市民はもとより、賛同される他事業所での立ち上げにも協力して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部第三者の評価及び自己評価は、実施指導の内容のように、「事業所の力量を○×で決定付ける」内容ではなく、各事業所が持つカラー(長所)を伸ばし、発展性を願う内容であるため、誠意ある助言を聞くことができる。また、事業所自身も改めて一年を振り返り(反省)、次月からの取り組み(抱負)を導かせてくれている。	○	指導マニュアルの結果とは違い、第三者の評価終了後のメッセージは、職員会議や専門委員会等で取り上げ、次の評価日まで全職員を上げて取り組んで行ける体制を更に確立して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議では、状況報告や第三者評価のメッセージ等を公表し、サービス向上や認知症支援技術を地域へ還元する活動に活かしている。	○	これらの取り組みは、地域にある喫茶店の全面協力に結びつけることが出来た。月1回、シルバータイムを設けていただき、当事業所の他に、他の事業所(老人ホーム・デイサービス)の利用者たちで賑わっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の社会からの孤立を防止するため、喫茶店をはじめとし、日用品・食品等の買出しなど社会的なつながりを支援している。	○	シルバー110番を通じて、地元のサロンのグループの方々や、ボランティアの方々と交流し、さらにネットワークを深めて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだまだ全体には浸透していない。	○	事業所内外の研修会等へ、積極的に参加を行って行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員間で、お互いの支援の仕方について、気づき、話し合える関係を持ち、注意を払いながら防止に努めている。	○	事業所内外の研修会等へ、積極的に参加を行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・退居にあたり、関係医療機関の医師・管理者・現場職員等の意見や、運営規定を十分に説明している。また、利用者や家族からの疑問や不安にはご理解頂けるよう、継続して何度も説明している。</p>	<p>○</p> <p>退居時等では、病院・特別養護老人ホーム等への調整と異動についての援助を、先方との連携に努めていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」の設置や、個別での関わりの中、不満や苦情を吸い上げているが、認知症により表現できない方が多い。それを行動などから察し、改善できるようケース会議等で検討している。</p>	<p>○</p> <p>利用者に限らず、ご家族に対してのご意見等は、家族会などの機会を通じ、アンケートにて徴収している。ご家族などが、気軽に相談できるような事業所対応を目指したい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話等で、必要に応じた状況を報告し、月に1度、金銭の使用状況を送付・報告を兼ね生活の様子を記録した写真等を送付している。又、年4回のちくりん新聞を送付している。</p>	<p>○</p> <p>訪問時には、記録の内容説明等は、報告を兼ねた姿勢でご家族をお迎えしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会でのアンケートや、面会時の聞き取りなどを行っている。</p>	<p>○</p> <p>家族の思いが汲み取れるような姿勢でご家族をお迎えしたい。ご意見やご要望は、専門委員会(ケア委員・入浴委員・食事委員)等を通じ職員会議等で報告並びに検討していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別面談や日頃の会話の中から、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>○</p> <p>随時、全職員に対して中間テスト(事業所専用自己評価表)を行い、自己の能力啓発や目標設定確認に役立てている。事業所の方針に従うことも大切であるが、各職員の思いを反映させ、それを事業所の方針として更に掲げて行きたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望に答えられるように職員会議等で話し合い、柔軟な対応が出来るよう勤務の調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>更に利用者最優先で勤務調整が取れるように、職員が丸となって責務をこなして行きたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が異動・離職するにあたり、職員の思いを大切に、可能な範囲で異動時期などを話し合いによって調整している。</p>	<p>○</p> <p>ダメージ等を最小限にするため、継続して馴染みの環境を提供・支援できるよう外出・外食などの生活を共にし、早期顔馴染関係を構築する取り組みを続けて行きたい。</p>

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等、計画をたてる委員会(ケアプラン委員会)を設け、どんな研修を受けたいか職員からアンケートをとり、内部・外部研修共に積極的に参加できるように取り組んでいる。	○ トレーニングを兼ねた中間テストをもとに、各種専門委員会主催の職員研修会の実施。認知症支援対策委員会(MACK)主催の管理者等の研修などを定期的で開催し、職員が職員のための研修企画実施に向けて、更に組織作りを目指したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で行われている交流研修や勉強会などに参加し、日頃の支援に活かしている。	○ デイサービスとの連携を強化し、お互いの事業所が持つ長所を利用するような取り組みの機会を更に増やしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会・職員旅行などで、日々のストレスの軽減を図っている。	○ 職場内だけの限定した環境ばかりではなく、バーベキューや演奏会などを通じ、信頼・親睦を深めるため職員一同が企画実行して行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各委員会を設けたり、担当利用者を持つことにより、各自が責任を持ち、向上しながら働けるように努めている。	○ トレーニングを兼ねた中間テスト(職員自身の自己評価)は、各職員が目指す方向がブレないように、その職員に到達してほしい目標地点など解り易く明確に出来る機会として有力な方法である。定期的に行いサポートして行きたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 本人との面会を必ず行い、不安や要望を聞いている。			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護保険初回利用者には、例え、党事業所利用に至らなくともセンター方式のシートを導入し、ご本人やご家族の思いがなるべく漏れないように汲み取り、将来の利用にこぎつける様支援を行っている。	○ 初対面のため、なかなか心境に至ることは難しいが、紹介者やケアマネからの情報だけに限らず、ご本人やご家族等の口では言えないサインや思いなどを見逃さないよう精進したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の気持ちよりも、ご家族側の思いが優先されがちであるが、認知症の正しい理解を家族側にも提供または指導などを行い、信頼関係構築に努めている。	○ 施設に入れたいばかりのご家族。家で共に暮らしたくとも出来ないご家族。世間体が気になり決断できないご家族。などとケースにはさまざまな心境が見え隠れする。担当する職員によって客観的に捉え、価値観を自分と比べ判断してしまう様な受け入れ型面接ではなく、ケアを提供するための面接として、ケア委員を中心に研修会を企画したい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・見学・入居申し込み等に、何の支援を求められているのか話の中で見極め、必要に応じて、他の事業所のサービス等を紹介したり、アドバイスを行っている。	○	利用に至らなくとも、在宅介護力の向上を目指し、今からできる具体的な対応方法や認知症の理解など家族勉強会話実施している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からの情報提供から、馴染みやすい雰囲気を整えながら、家族とも相談し参加出来るように工夫している。	○	センター方式のツールを利用しながら、本人が安心してサービスを受けられるよう工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と生活を共にし、利用者から教わること・手助けしていただくことが多い。	○	認知症が有っても無くても、『人』対『人』という関係の構築に、職員が一丸となって取り組んで行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お互いに出来ないことを補いながら、本人を支えていく関係を築いている。	○	外出・外泊・外食など、家族の絆を大切に、気軽に実施できるよう更にご案内していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	良い関係が継続できる様、日頃から家族に連絡を取りながら支援を行っている。	○	入居させた罪悪感を持ったままのご家族等に対し、介護サービスを提供するチームとして迎え入れ、共に喜び合える機会が持てるような個別ケア日(マンツーマンデイ)を多く取り入れて行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には個別ケア日に共に外出し、家族・地域の人・職員関係の継続に努めている。	○	しっかりと目的を持ち、テーマに沿った個別ケア日の提供に努めて行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同で作業をしてもらったり、気の合った者同士で居室で食事をしたり、外出したりしながら常に職員が意識しながら努めている。	○	利用定員が、9名と定められている中において、気の合う・体力の合う・好み合うなどの3人を1ユニットとして随時グループ化をし、行き先や内容によっては、1ユニット3名のメンバーが変わる。このような取り組みの機会を増やして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に入所、または入院で退居となった前利用者に対しても、職員が利用者と面会に行くことがある。また、退居後の不幸にも、馴染みの利用者と職員が参列させていただくこともある。	○	退院後のフォローについても、積極的にアプローチをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに寄り添ったケアプランシート(センター方式)を使用し、本人の思いを聞き取り、困難な場合は今までの暮らしや趣味などを取り入れ、その人らしく暮らしていけるプランを職員間で話し合いながら立てている。職員間にプランが浸透せず、統一した対応が出来ていない。	○	センター方式のツールの狙いを、1人でも多くの職員に理解してもらうために勉強会等を開催していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや生活環境は家族から情報を聞きだせるように努めている。その中で、これからの暮らしに活かせるものは、ケアプランに反映させたり、職員間で話し合い、暮らしやすい環境づくりに努めている。	○	身寄りが全く無い故利用者に対しても、当法人の墓地などがあり、命日や盆・彼岸等にはお参りしている。当事業所の特性を大切にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当職員が、担当利用者の日常の様子を特に気にかけるよう努めている。さらに、ケース会議や職員会議では、担当者が本人・家族・他の職員から、情報を収集して支援方針を検討している。	○	マンツーマンデー(個別ケア実施日)を中心に、本人や家族の思いを反映させるべく取り組みを継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の考え方をもとに、本人や家族と話し合い、ケース会議や職員会議等で他の職員とも検討しながら介護計画を作成している。	○	ケア委員会・食事委員会・入浴委員会・認知症支援対策研究室などの各種委員構成をより鮮明に役割分担を行い、本人主体のケアプラン作りと実行に徹していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の変化により、随時、ケアプランの変更を行っている。	○	ケア委員を中心に、ご本人やご家族と担当者で隙間無いケアを提供していきたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今後のケアにつながる新たな発展、気づいたことなど、記載できる業務日誌・個別記録用紙等を改善を行い、全職員が共に記入している。日々の様子やケアの実践の記録はまだまだ十分ではなく、今後は日頃の個々の様子にも気を配り、記録に反映させたい。	○	新しく業務日誌、個別の特記事項を作成し、記録を記入するにあたり、情報を共有しながらケアプランのアセスメントやモニタリングの参考にしている。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に答え、病院の退院・外出・外食などに職員が付き添うなど、柔軟な支援をしている。	○	本人や家族の状況を考え、要望に答えられる様、柔軟な支援を心がけている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	朗読ボランティアに毎月1回来て頂いたり、公共施設の利用・祭や行事の参加等、地域資源に協力を頂き、本人を支援している。	○	教育関係では、運動会等の参観。消防関係では、他の事業所と共に非難・行方不明捜索訓練等を協力して行っている。地域の方が行方不明になられた場合を想定した地域訓練も地域に協力して実施していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームのため、他の介護サービスの活用はできていない。	○	ただ、デイサービスセンターなどが隣接しているため、共同での行事等には積極的に参加をし、持ちつ持たれつのか関係を維持していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に参加していただいている。	○	市民のための認知症勉強会などは、地域包括職員・社協職員と連携した取り組みが維持できている。より一層連携し強いネットワークを構築したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、かかりつけの医院のDrに往診していただき、24時間体制で指示を受けながら適切な医療を受けていただいている。	○	入居・退居判定にも携わって下さっており、最新情報の提供を努めていきたい。

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>研修医の事業所視察時などを利用し、現在の利用者を取り囲む医療体制について、ご本人やご家族を代表して思いを伝え発信していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>「認知症患者」として捉える看護師に対し、「認知症を患っている人」として見て頂ける様、研修会、講演会などで理解を求めていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>長引くほど認知症が進行するケースが多く、主疾患はもとより、日頃から入院を避ける対応を心がけたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ご本人やご家族の希望を傾聴し、事業所や職員のできることで出来ないことなど、お互いの可能性を見極めながら対応していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ご本人やご家族の希望を傾聴し、事業所や職員のできることで出来ないことなど、お互いの可能性を見極めながら対応していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>忘れてはいけないのが多くのご家族が持たれる後悔の念。ご本人はもとより、ご家族に対して最寄丁寧な計らいを大切にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が理解しており、日常注意しあっている。	○ 研修会等の発表時・新聞の掲載・市民の事業所利用時、ご本人やご家族の承諾の下で行っている。今後も、定期的に確認を行いながら、活動していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人にわかりやすく、ジェスチャーや言葉で、急がずゆっくりと関わりながら、利用者の希望や自分で決めたりできるよう支援している。	○ ご家族などの力も借り、自己決定が出来やすい環境や場面を、個別ケア日を中心に支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重できるよう、その日の気分や体調を考慮しながら柔軟な対応を心がけている。	○ センター方式シートなどを使用し、その人らしい瞬間が現れるような畏を、日常生活下で仕掛けていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1～2ヶ月に1度美容院より来園され、本人の希望を聞き、カットしていただいている。	○ ご家族等の承諾のもと、以前の行き着けの理美容店に出かけていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「今日は何が食べたいですか」等聞きながら、その日、その時のメニューを考える。又、料理の本を参考にしながら、利用者の好きなメニューを尋ねたり、買い物先で選択していただいたりしている。	○ 食事委員会では、品定めや決定等の機会を多く持つように買い物の方や、調理などの一連の作業などを研究していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日頃、「どんなものが好きなのか」を尋ねておき、医療的に問題なければ、好みのものを個々の状況に合わせて楽しめるよう支援している。	○ 社会通念上、常識の範囲であれば、喫煙・飲酒等の嗜好品についても楽しんでいただけるよう支援を行っている。また、それらの入手についても、今後も本人と共に買い求められる支援を行っていきたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁されても安易に紙オムツ等を使用するのではなく、失禁者の心理面を最優先に対応している。	○	失禁される可能性があるのは、人間だけではない。このため、プライドが高く感情を持つ人ほど、失禁したと言う事実よりも心のサポートを大切に行うことに重点を置きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応設定しているが、希望があればいつでも入浴して頂ける。	○	入浴委員会を中心に、入浴についてのあり方を研究している。壁飾り、観葉植物、菖蒲湯・ゆず湯等季節ごとに変化をつけ、バスタイム演出に期待していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具等は、全て本人と家族が用意したものであり、安心できる環境を整えている。	○	自分の居場所作りには、ご家族の協力が不可欠。適度な刺激を与え認知症進行と共に安全安心を提供するため、随時ご家族と共に配置や飾りつけなど工夫を凝らしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の活動はもちろん、毎月1～2回以上、職員が利用者とは1対1の対応で過ごす機会(個別ケア日)があり、本人の力、要望に合わせて思う存分、楽しんで頂く機会を設けている。	○	家族に連絡を入れ、共に参加できる機会を考えていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に支援を必要とされる利用者が多く、完全に所持・管理して頂く事は出来ないが、園内の売店で購入されたり、外出時におこずかいより飲食代を支払って頂く等、支援している。	○	ご家族も参加していただけるような案内や役割分担を行って行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、散歩、畑仕事、調理、喫茶、イベント参加等、希望に沿って支援している。	○	外出は楽しみでもあり、地域での行事も含めて、本人が希望される支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別デイを活用しながら、様々な所へ出かけている。	○	個別旅行には、今年度中にご家族と参加できる内容を計画している。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時はもちろん、本人の様子を見ながら働きかけている。ケア委員がサポートしている。	○	家族にぬり絵や手紙を書き、職員と共に投函している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時に居室で共にお茶・お菓子を食べられたり、一日中園内に居て利用者の身の回りを整えてくださる家族もある。	○	計画には無い、思いつきでの外出は通常化してきたが、気軽に訪問していただくことがなかなか難しい。研修生や、来客時に利用者が精一杯のおもてなしをすることが精一杯である。めげずに、地域に発信し、呼びかけて行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や行動範囲の制限を加えるような身体拘束や、言葉による拘束等もなく、職員一同が理解している。	○	ケア委員が中心となり、今後も職員の自己啓発に取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠や行動範囲の制限を加えるような身体拘束や、言葉による拘束等もなく、職員一同が理解している。	○	ケア委員が中心となり、今後も職員の自己啓発に取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール担当者が、安全・所在確認をしながら共に生活をし、夜間は夜勤者が定時の他随時訪室などを行い所在確認や様子を把握している。	○	当事業所は、一階建ての平屋作りで吐き出し窓が各部屋にある。その気になれば、誰でも鍵をはずし外に出られると言う条件のため、要注意の方は必ず目を離さないように交代しながら常に緊張緩めない体制でいたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・洗剤等の危険物等は施錠または倉庫などで管理している。生活の中で当たり前にある必要なものは置いてある。	○	今後も油断せず、事故防止に努めて行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれ必要に応じて、訓練・研修・会議などを通して取り組んでいる。	○	ヒヤリハットに記入し、ケース会議当検討している。ケア委員等と担当者との対策会議を通じ、原因究明を行い再発防止に努めて行きたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力の下、救急救命訓練を受けている。	○	研修を受けていない職員もあるので、順番に受けられるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	認知症高齢者のため、利用者自身が非難する方法を身につけることは困難であるが、同法人の避難訓練に参加し、対処できる様心がけている。	○	運営推進委員会を通じ、地域との協力連携に努めて行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個々の体力等に対して、家族に説明し、どう対応していくべきか話し合っている。	○	全事業所で、主疾患のために外出の機会がほとんど無かった利用者に対し、リスク等の事故に備えた情報提供を行い、承諾の上、生活するに適度な外出支援を続けて行きたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや様子観察など、その日のリーダーが責任を持って情報収集し、変化があった場合には医師との連携をとり、急変時には受診等を行っている。	○	隣接している他事業所の看護師等との協力体制作りを明確に行って行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は日誌に記録し、職員全員が把握し、薬局からの副作用の説明書なども確認しやすい場所に保管している。服薬直前にも確認できる様、個々の箱に薬の個数を記入している。	○	これからも、正確な情報を医師に提供し、必要適切な量が処方され、誤訳等が無く安全に服薬する支援を行って行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ薬には頼らずに、常に水分補給や食事内容に注意を心がけ、気を配っている。	○	食事委員会では、便秘症についての企画を検討し、栄養士等を講師に招き勉強会を開催していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、1人ひとりの状況に応じた口腔ケアを行っている。	○	毎食後、洗面所への誘導をしているが、職員も一緒に出来るように行って行きたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会を中心に、同法人の栄養士と連絡を取り、利用者、職員合同で会議を開き、献立、栄養面、カロリー等助言をもらっている。	○	業務との兼ね合いで、給食委員会が滞ってしまうことがある。定期的に継続できるように調整していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師の助言のもと、感染マニュアルに沿った対応をしている。	○	ケア委員や認知症支援対策研究室主催で、定期的に感染予防勉強会を開催している。利用者やご家族等についても、感染防止に情報の提供を行うと共に、協力依頼を行い続けていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はその都度洗浄し、日に一度はまな板等消毒をしている。食材に関しても、常に安全で新鮮なものを提供できるよう心がけている。	○	さまざまな機関を通じ、情報を収集を行い実行し、食の安全に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	美化係を中心に、利用者と共に草引きを行ったり草花を育て、玄関に飾ったりしている。	○	言われたからいやいや作業するのではなく、職員や利用者の趣味を生かし楽しみながら作業できる時間を業務で保証し、適材適所の人に担当させ憩いの場作りを増やして行きたい。園芸教室やクラブ等の活動を行っているグループが地域にある可能性があり、園芸研修の機会を与えて行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	美化係を中心に、季節に応じた壁画を利用者と共に創作し、飾っている。	○	原則、事業所には、運営規程等の規則はあるものの、不向きとされているようなものであっても、社会に通常出回っているさまざまな装飾品やアイドルや俳優等のポスター等を掲示したり、普通の暮らしの空間を利用者や職員で気付き上げて行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、屋内ではソファを利用し、屋外ではベンチ等を配置し、気の合った者同士が茶話会や食事等を楽しみながら過ごせる様配慮している。	○	ケア委員・食事委員等が中心となり、居場所の確保を更に進めて行きたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具、道具は、本人か家族が用意した使い慣れたものを使用している。また、新しい家具等についても、ご本人やご家族の趣味や趣向を大切に受け入れている。	○	家族より、孫やひ孫の写真を持って来られて飾っている。その方の居場所作りに拘って行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体温調整に常に気を配り、空調を調節している。また、換気も頻繁に行っている。	○	適温時には、事業所内の窓や玄関を全開にし、グリーンカーテンなど目的を持たせた園芸クラブとの協力により、来年度に向けて準備を進めて行きたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やサイドレール等、その人専用のしつらいを元に工夫している。	○	新しい情報を求め、より良い適材を求めて行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人が必要としている支援をさりげなくできる様、個別ケア日を中心にご本人やご家族、担当者や各種委員会等力を合わせ努力している。	○	本来の1ユニット9名をさらに再分割化、1ユニット3名としより個別化を進め、本来の力の発揮、失敗をカバーして行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外も、休憩、散歩、草花の育成、畑作り、洗濯物干し、外での食事等、多いに活用している。	○	畑作業の担当者中心に季節の野菜を作り、利用者と共に作業、収穫を行い喜びを共に(職員のほうが喜んで)している。今後も、利用者の中にいらっしゃる農業の先生方の指導を受けながら、野菜等作物作りにチャレンジして行きたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

グループホームちくりんえん

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●個別デイー毎月1～2回以上では、利用者と職員が1対1で1日を自由に過ごす日を設けている。あらかじめ本人やご家族等から情報を収集しておき、各種委員会等の協力支援の中で一日を共にする。京都の祇園祭、有名デパート等に出かけたり、故郷での同級会に参加支援、お墓参り・魚釣りなどを行ったりと、有意義な一日を送ることが出来る。利用者ばかりではなく職員側も楽しく参加をし、リベンジが催されている。帰園後は、利用者自らが感想を書き、続いて職員が感想を記入、ケア委員や担当者等が評価する。それを次回の担当者が、個別ケア日のヒントとし繋がっている。

●シルバー110番その1 平成19年2月に活動を始めたシルバー110番。地域住民の方に対し、正しい認知症の理解を習得していただくとする第一の目的は、認知症になっても安心して暮らせる町づくり活動の一環として、地域に理解者を増やす活動です。ボケと認知症の違いを説明し、認知症の種類別支援の方法などを具体的に説明する認知症基礎勉強会。そして、実際にケア現場に参加をし、共に買出し・食事作り・後片付けなどを行い、アクティブなケアを楽しみ、認知症支援の具体的実行を生で体験していただく専門勉強会とがあり、いづれも受講料・出張料無料。

●シルバー110番その2 第2の目的として、認知症の人や家族が福祉窓口や事業所等に相談に来られるケースは少なく、大半が、井戸端会議など身近な場面で相談されている。また、認知症という病気になったことを隠そうとされる方も多。そんな中に、福祉や事業所以外の地域に、いつでも気軽に相談するところがあり、ネットワークがあるということを知っている人が身近に居たらどんなに心強い。地域には、認知症介護無料相談所(S-110)が70カ所あり、難しい問題は、S-110本部に相談所から寄せられ、ご自宅でスライドを見ながら認知症の勉強会が無料で実施できます。在宅介護力の向上は、南丹地域包括支援センター・南丹市社会福祉協議会・認知症の人と家族の会などが協賛して取り組んでいる活動です。現在、京都市・亀岡市・舞鶴市・福知山市にもS-110相談所がオープンし、他事業所も取り組みを始め町づくりに向け動き始めています。私たちは、当法人独自で始めた活動でしたが、ノウハウを無償で提供することとし賛同者と共に取り組んでいきたいと思っています。